●〈症例〉

Helicobacter pylori 除菌療法により縮小，消失した腺窩上皮型過形成性胃ポリープの6症例

吉原一郎¹⁾ 権田昌洋 日下部史郎 森 洋
松久威史 山田宣孝²⁾

¹⁾日本医科大学付属多摩永山病院／内視鏡科，²⁾日本医科大学／第二病理学教室

〔Key Words〕 *Helicobacter pylori*，腺窩上皮型胃ポリープ

はじめに

Helicobacter pylori (*Hp*) の除菌療法により，内視鏡的に腺窩上皮型過形成性胃ポリープが縮小および消失した症例を6例経験した。

対象と方法

Hp 感染があり，ポリープからの生検により腺窩上皮型ポリープと診断され，*Hp* の除菌治療に対するインフォームドコンセントの得られた6症例を対象とした。生検によりポリープの消失したものは含まれていない。

除菌治療は，オメプラゾール，アモキシシリン，チニダゾールによる3剤1週間療法により行った。なお，*Hp* 感染の診断，除菌判定は従来より当科で行っている方法に従った¹⁾。

症 例

症例1：60歳，男性。前庭部中部大彎側に発赤した山田Ⅲ型ポリープ(約7mm)を認めた(Color 1-a)。病理組織像は腺窩上皮型過形成性ポリープを呈している(Fig. 1)。ポリープは除菌6週後に約5mm(山田Ⅱ型)に縮小し，除菌6ヵ月後には消失していた(Color 1-b)。

症例2：68歳の男性。前庭部中部後壁側，下部前壁側に各々山田Ⅲ型(約10mm)，Ⅱ型(約3mm)ポリープを認めた(Color 2-a)。除菌6ヵ月後に後壁側のポリープは約4mmに縮小し，前壁側のポリープは認められなかった(Color 2-b)。

症例3：48歳の男性で，前庭部下部小彎側に発赤した約4mmの山田Ⅱ型ポリープを認めた。除菌6ヵ月後にポリープは消失していた。

症例4：前庭部大彎側に約8mm，山田Ⅲ型ポリープを認めた54歳の女性。6ヵ月後の内視鏡像では約6mm(山田Ⅱ型)にわずかに縮小していた。

Fig. 1

症例5：63歳，男性。胃角部大彎側に約6mm，山田Ⅲ型ポリープがみられた。除菌6ヵ月後の内視鏡検査時にポリープは消失していた。

症例6：57歳の男性。前庭部後壁側に約4mm，山田Ⅱ型ポリープがみられたが，6ヵ月後の内視鏡観察時には認められなかった。

これらの症例はいずれも除菌療法開始6週間後に除菌が確認され，慢性活動性胃炎(CAG: Chronic Active Gastritis)が消失している。

考 察

腺窩上皮型過形成性ポリープ症例は *Hp* 陽性率が高く，胃底腺型ポリープ例には *Hp* 感染のほとんど認められないことが知られている²⁾。*Hp* 除菌療法による腺窩上皮型ポリープの変化について検討した。

除菌療法を行った当科の腺窩上皮型ポリープはいずれも胃角部，前庭部にみられた山田Ⅱ，Ⅲ型である(Table 1)。全例において *Hp* 感染に起因すると思われる背景胃粘膜の萎縮を伴っており，胃底腺型ポリープとの大きな相違点でもある²⁾。6症例(7個)中除菌後消失した5個のポリープはいずれも7mm以下のものであった。それより大きいものも縮小しており，長

Table 1 Changes of gastric polyp after *H. pylori* eradication.

case	location	before eradication		after eradication	
		size	type	size	type
1	antrum	7 mm	Yamada Ⅲ	disappeared	
2	antrum	10 mm	Yamada Ⅲ	4 mm	Yamada Ⅱ
		3 mm	Yamada Ⅱ	disappeared	
3	antrum	4 mm	Yamada Ⅱ	disappeared	
4	antrum	8 mm	Yamada Ⅲ	6 mm	Yamada Ⅱ
5	angulus	6 mm	Yamada Ⅲ	disappeared	
6	antrum	4 mm	Yamada Ⅱ	disappeared	

期の観察により消失する可能性が十分ある。除菌治療後の経過観察時に、ポリープのあった部位からの生検は行っていない。それは経過観察中の生検によりポリープの消失、縮小の可能性を危惧したからである。今回の経験によりポリープの消失、縮小が示されたので、今後はポリープのあった部位から生検を行い組織像の変化を観察したい。

腺窩上皮型ポリープでは、*Hp* 感染に伴う強い CAG が背景胃粘膜にみられる²⁾。CAG に伴い引き起こされた粘膜細胞増殖能の亢進が、腺窩上皮型過形成性ポリープの発生に大きく関与しているのではないかと考えられている³⁾。CAG の存在が胃粘膜細胞回転を速めることは、MIB-1 (抗 Ki-67 抗原) 染色による陽性細胞率の検討からも明らかである⁴⁾。

腺窩上皮型過形成性ポリープの除菌後消失例が他施設からも報告されている^{3,5)}。腺窩上皮型ポリープの縮小、消失する原因については、*Hp* の除菌により胃粘膜の CAG が改善したことだけではなく、細胞増殖因子やレセプターのダウンレギュレーションが重要な原因であろうと述べられている³⁾。

ポリープの縮小、消失の機序は腺窩上皮型ポリープの発生メカニズムの解明に手がかりを与えるものと考えられる。

おわりに

胃腺窩上皮型過形成性ポリープに対する *Hp* 除菌療法はポリープの新しい根治治療となる可能性がある。除菌によって消失するポリープの大きさの上限、形態との関係、消失までの期間等を検討したい。

文 献

- 1) 松久威史, 羽山享宏, 山田宣孝, 他: *Helicobacter pylori* 除菌療法の評価. Prog. Dig. Endosc. 50: 152—156, 1997.
- 2) 松久威史, 羽山享宏, 伊藤 博, 他: *Helicobacter pylori* 感染からみた胃ポリープ—腺窩上皮型, 胃底腺型ポリープの比較—. 臨床と研究 76: 737—741, 1999.
- 3) 菅野健太郎, 福岡康之, 矢崎義雄, 他: *Helicobacter pylori* の除菌によって消失した胃過形成性ポリープの 1 例. *Helicobacter Research* 1: 102—105, 1997.
- 4) 高橋信一, 増淵尚子, 斎藤昌三, 他: *Helicobacter pylori* と胃炎. 胃の炎症学, 浅香正博編, メディカルレビュー社, p. 347—361, 1997.
- 5) Mocek, F. W., Ward, W. W., Wolfson, S. E. et al.: Elimination of recurrent hyperplastic polyps by eradication of *Helicobacter pylori*. Amn. Intern. Med. 120: 1007—1008, 1994.

Six cases of foveolar hyperplastic polyp of the stomach disappeared and reduced after the eradication of *Helicobacter pylori*

Ichiro Yoshihara¹⁾ Masahiro Gonda
Shiro Kusakabe Hiroshi Mori
Takeshi Matsuhisa Nobutaka Yamada²⁾

The relationship between *Helicobacter pylori* (*H. pylori*) infection and foveolar hyperplastic polyp has been reported. In our study, 6 cases of foveolar hyperplastic polyp located on antrum or angulus were disappeared and reduced after the eradication of *H. pylori*.

It is considered that this phenomenon is due to the improvement of *H. pylori*-induced mucosal inflammation. This result suggests that the *H. pylori* eradication may be expected as a new treatment of foveolar hyperplastic polyp.

¹⁾Dept. of Gastrointestinal Endoscopy of Tama-Nagayama Hospital, ²⁾Dept. of 2nd Pathology, Nippon Medical School.

<カラーは 7 頁に掲載>